

# 永泉

日本基督教団瀬戸永泉教会 会報No.261 2023年12月3日発行

巻頭説教 「ヘロデのクリスマス」 横山厚志

そして、「行って、その子のことを詳しく調べ、見つかったら知らせてくれ。わたしも行って  
拝もう」と言ってベツレヘムへ送り出した。(マタイ2:8~9)

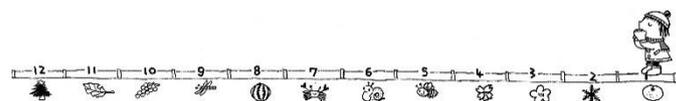
イエス様がお生まれになられる時のユダヤ人の王はヘロデでした。ヘロデはユダヤ人とエドム人との間に生まれたのでした。ヘロデはパレスチナの内乱の時にローマ人のために素晴らしい働きをあげたために、ローマ人の信用を得て、ユダヤの領主に任命され、王の称号を得るまでになっていきます。ヘロデは長い間権力をふるっていました。やがてヘロデ大王と呼ばれるのにふさわしい働きをしていきます。パレスチナに平和を維持し、混乱の世界に秩序をもたらしたただ1人の人物でした。ヘロデはエルサレム神殿を造営しました。人々が困窮した時には税を免除し、飢饉の時には自分の金を使って、人々のために穀物を購入したりしました。しかし、ヘロデの性格には難しい部分がありました。それはとても懐疑心が強かったのです。それが年をとると共に強くなっていきました。誰かが自分の権力の座をおびやかすと思えば、すぐにその人を葬り去ってしまうのです。ヘロデは自分の妻とその母と自分の子どもたちですら殺してしまったのです。

東方から博士が来て、ユダヤ人の王として生まれた幼子を探しているという知らせがヘロデの耳に達したのです。王であるならば誰でも、王位を継承する者が生まれたと聞けば動揺するに違いありません。ヘロデの不安はより深いものとなっていきます。ヘロデのような人物が、将来王となる子どもが生まれるという知らせを受けた時に、どのような反応をするかは簡単に想像することができます。マタイは、ヘロデの動揺とエルサレムの人々の動揺を書いています。人々はヘロデがこの消息をつきとめて、子どもを殺すことはよく知っていたのでしよう。ヘロデは東方の博士たちを密かに呼び、子どもの情報を得ようとしています。そして、「行って、その子のことを詳しく調べ、見つかった

ら知らせてくれ。わたしも行って拝もう」といってベツレヘムへ送り出したのです。博士たちはイエス様にお会いし、拝み宝物をささげることができました。ところが「ヘロデのところに帰るな」と夢でお告げがあったので、別の道を通って、自分たちの国に帰って行きました。

さて、ヘロデは東方の博士たちにだまされたと知って、大いに怒りました。そして、人を送り、学者たちに確かめた時期に基づいて、ベツレヘムとその周辺一帯にいた2歳以下の男の子を残らず殺させたのです。とても悲しい事件です。ヘロデの思いを考える時に、とても孤独だったように思います。ユダヤ人の王として、人々から尊敬を受けるために、いろいろな努力をしてきました。一方で、自分の王位を守るために、日々、動揺し、誰も信じることができず、少しでも危ないと思う人物がいれば、次々に消していったのです。いつも安心して寝ることができなかったと思います。でも、ヘロデはまもなく死んでしまうのです。ヘロデが生きていた時にしたことは何の意味があったのでしょうか。多くの悲しい死がありました。ヘロデの孤独をどのように考えればいいのでしょうか。ヘロデの孤独を、私たちは想像することができるのでしょうか。私たちはヘロデとは違うということができるのでしょうか。

でも、このことだけはいうことができます。イエス様は、ヘロデのためにもお生まれになったということです。ヘロデをも愛するために、イエス様はお生まれになったのです。この世界のすべての人々のために、イエス様はこの世に来てくださったのです。それがクリスマスです。この年も皆様と一緒にクリスマスをお祝いすることができることに感謝します。



## 長老の証

### 信徒相互応援伝道の証 N・A長老

#### 「キリストがわたしのうちに生きている (ガラテヤ 2:15-21)」

自分では、自分が正しいと強く思っている、しかし、周囲にはそれが認められない、というジレンマは、今日の日本において、とても多くの人が抱えている感情だと思います。ネット社会において、匿名性のもと、他人をひどく攻撃したり、ここ数年、実際に他人を殺傷したりしてしまうところまでいってしまうことも頻繁におこっています。また、間違っただけではない、というプレッシャーで心を病んでしまう同僚が後を絶ちません。

「正しくなくてはいけない」ということに、私たちはとらわれています。電車の中で、あるいは道を歩いている時に、「正しくない」ふるまいをする人がいると、私たちは激しく憤りを感じます。

また、ある時は、「自分が間違っていたらどうしよう」ということにとらわれます。自分が正しいと思ってやっていたことでも、いつの間にかルールが変わっていて、いいと思っていたことがダメになったりします。

私自身が洗礼を受けたのも、「正しく」あることができないと思ったからでした。思春期に自己肯定感が持てず、「わたしという存在は、キリストによって赦されなければ生きる価値がない」と思ったのです。では、洗礼を受けて、すぐに前向きに生きられたかという、そうではなく、自己肯定感の低いまま、生きてきました。

自分は正しくあることはできないし、正しくなくてもよい、と思えるようになったのは、40才も半ばを過ぎた頃でした。「律法の実行によっては、だれ一人として義とされないからです。」仕事で素晴らしいパフォーマンスをしたとしても、素晴らしい人格者とされるような善い行いをしたとしても、行いによっては義とされない。ただ、信仰によって義としていただけなのであって、すでに私は赦され、義とされ、神の子とされているのだ、ということ、信じるというのは、それまでは日本人的な謙遜、「いやいや、自分なんかそんな恵みには値しないですよ」みたいな思いがあったのですが、それこそ無駄なプライドであって、頑張れば自分で恵みに値する者になり得るというおごりであるということに気づいたのです。

私は、義とされている、正しいとされている、それはキリストが私の内に生きていて下さるからであって、わたしが努力したり素晴らしい判断力を発揮したりする必要は全然ないのだ、と信じていることができるのは、間違いなく、聖霊の働きによるのだと思います。

今年、私は50歳になりました。人生が折り返しに入り、この先は神さまからいただいたものを、ひとつひとつお返ししていく道のりと考えています。できることが増えるのでなく、できたことができな

くなる段階に入ったのです。

ヨブ記に、「わたしは裸で母の胎を出た。裸でそこに帰ろう。主は与え、主は奪う。主の御名はほめたたえられよ。」という言葉があります。わたしが、わたしが、という思いは、キリストと共に十字架につけられ、何をしてもしないもできるもできないも、主の御心にゆだねることで、この困難な時代を、主が再び来られたもう時を待ち望みつつ、喜びにあふれて生きていくことができると信じています。

## 讃美歌あれこれ

### 「病室でのクリスマス・そして」 M・N姉

独身時代に通った教会では聖歌が使われ、結婚後永泉教会では讃美歌および讃美歌第二編を、そして現在の讃美歌21へと移行しクリスマス讃美歌の歌詞やメロディーも微妙に違いがあり、それぞれ馴染むまでには時間を要しました。しかしそれも今ではその時々的心情や信仰の歴史と繋がり、礼拝堂の懐かしい香りさえ漂ってくるようです。

二年前、夫は神様の下へ帰されました。コロナ禍の入院は患者は勿論、家族にも医療従事者にも苦しい日々でした。やがてメールも通話も応答がなくなり、症状をそんなことから察するしかない辛さ。それでも最期の三日間病室に泊まることを許していただき、病院のご配慮には感謝するばかりでした。

若葉の爽やかな5月中旬、夫の傍らでクリスマスの讃美歌も何曲か繰り返し歌いました。意識は遠退きつつも口元は時々合わせて動き、いつもベースでハモらせる夫の声が私の耳の奥では聞こえる気がしました。5月、夫と賛美した病室でのクリスマスでした。

隣に夫の居ない2021年聖夜礼拝はパーティ瀬戸で行われました。病室でのクリスマスを思い出さずと涙で賛美できない！と案じる中、一緒に参加していた当時小学5年生の孫が、綺麗なボーイソプラノで「グローリア、グローリア」と高らかに賛美していたのです。讃美歌21・263番です。悲しみの涙を喜びの涙に変えていただいたのです。神様からのギフトに只々感謝するばかりの聖夜でした。



## クリスマスの思い出

クリスマスの思い出

K・N姉

初めての聖夜礼拝は、CS館での礼拝で義母と一緒に出席し、緊張している私を皆さんが温かく迎えて下さった記憶が残っています。

洗礼を受けてからの聖夜礼拝は、礼拝堂で3人の息子たちと共に出席し、ロウソク点火役を息子たちは頂き緊張しながらも教会の一員になれて嬉しかったようです。

ロウソクの明かりの中で、静かにイエス様の誕生のお話を聞き賛美するよりも息子たちはロウソクの炎の動きの方に興味津々でした。

聖夜礼拝後に、末広町商店街をキャロリング、教会学校の先生方と息子たちは楽しそうに賛美して歩いている姿を思い出します。

教会に戻ると暖かいCS館で、お茶とお菓子を頂きながら皆さんとお話した事は楽しい思い出です。日曜日のクリスマス礼拝後の愛餐会では皆さんが持ち寄られたお料理に舌鼓を打ち、礼拝後にお話できない方々とゆっくりお話したり、片付けも楽しい時間でした。

12月になると世の中は、クリスマス商戦でツリー、リースが飾られ、ジングルベルの歌が流れて華やかですが、教会でのロウソクの明かりの中での礼拝は心静かで穏やかです。

主人の曾祖父のK・T兄が描いた水墨画の「イエス・キリストのご降誕」の絵を去年の会報No258でH・Y兄が「教会の歴史の一片」として紹介して頂きました。T兄が心を込めて描いた絵は信仰の証です。

教会への繋がりには、主人の祖父のK兄、父のS兄、兄のN兄と繋がっています。

2年半前に、主人が脳室内出血で入院して、後遺症のめまいと目の焦点が合わない時がある為、主人を留守番させての外出が難しいので月に1回教会学校礼拝に出席しています。

息子たちと教会学校礼拝に出席していた頃を思い出して懐かしく感謝です。



1983年の末広町商店街のキャロリング(記事とは直接関係ありません)

## 報告

創立135年特別記念講演 永原郁子氏により

“いのちと性の大切さ”-小さいのちのドアから見えるもの

K・Y長老



10/15 創立135年礼拝後

① 講演 13:30~14:30

② 質疑応答 14:30~15:00

教会礼拝堂にてZOOMによるオンラインの講演を神戸市 マナ助産院 院長の永原郁子氏にいただきました。出席者は23名(内2名が新来者)でした。熊本の赤ちゃんとは

違う形で合法の範囲内で妊娠、その疑い、出産後の女性=お母さんのSOSを24時間体制で電話、メール、ライン等のSNS、来所によって受け止めて相談に乗っていきこう“一人の命でも救えたら”スローガンとして活動されています。助産院の一角から始まり、社会的ハイリスクの妊産婦のためにマタニティホームMusubiを建築。今や相談部門、生活・自立支援が県の委託事業となっています。2022年2月から一般社団~公益社団法人となっています。

2023年8月で51,374件の相談と新規相談者が12,139人になっているとのこと。(およそ半分が29歳未満 全体の27.4%が20歳未満) 10~20歳の相談としては“消えてしまいたい”“相手との連絡が取れなくなってしまった”“妊娠したかも、でも中絶したくない”“自分の母親に相談できない”“経済的に心配”など、中でも生むことは考えられないと思っているひとが非常に多いとのこと。産後もどうすることができず新生児の殺害遺棄事件の発生、うまく育てられず虐待死させてしまっている事件がよく報道されている実態。また、中絶後の相談も寄せられているとのこと。“赤ちゃんを見るたびに中絶した子のことを思い出す。”“その子のことが気になって眠れない。”“仕事をやめて精神科に通っている”“友人から人殺しと呼ばれた”“妊婦を見ると憎い”“無理やり中絶させられて、毎日自殺ばかり考えている”など。小さいのちのドアとして、いつでも傾聴し、決して否定しない、寄り添い、受容しやすくこと、不必要にコメントしない、過ごしやすい場の提供、自立に向けた支援など、生まれてくる赤ちゃんのことも生んだお母さんに寄り添い支えること続けていきたいと言われます。思わぬ妊娠も、中絶ではなく出産し特別養子縁組の選択肢もあるとのアドバイスをしているとのことでした。悩み苦しんでいる女性のよき隣人になっておられる小さいのちのドアの働きに主の支えと守りもありがとうございますようにお祈りいたします。



## 報告

### 宗教学法人瀬戸永泉教会規則改定が認められました。

#### O・N長老

教会礼拝堂建築について日本基督教団本部からの承認を得る時に、宗教学法人瀬戸永泉教会規則が昭和27年のままであることが明らかになりました。これを契機に、現在日本基督教団で推奨している宗教学法人教会規則に準じて宗教学法人としての規則変更をすることを長老会として提案いたしました。2023年4月の教会総会で承認を頂き、教団に届けて承認を頂いた後、愛知県に届け、少し手直しがありました。最終的に法務省に2023年10月2日登記が終了いたしました。

文章が現代かな使いになり、宗教学法人の目的も基本的に変わらないものの言い回しが『この法人は、日本基督教団の教憲、教規及び同教団の規則の定めるところに従って、ひろくキリストの福音を宣べ伝え、人々をして救いの恩寵に与らせ、礼拝、儀式及び行事を行い、信徒を教化育成することを目的とし、その目的を達成するために必要な業務を行う。』と現代文となりました。定期総会は年一回4月で、現状と同じとなりましたが、予算の承認が新しい年度の1ヶ月前に必要となるので2月末に臨時教会総会を開くことが必要となります。さらに会計監査の役も行う監事2名を置くこととなります。また公告の方法も現在の教会規約にあるものと同じとなります。

日常的な教会の維持運営には、今教会員が知っている教会規約が必要なのですが、この国において正式な宗教学法人団体として認可され、主イエスキリストによる救いの福音を宣べ伝える働きを正しく続けるためには、今回の宗教学法人規則が基本で必要なことだったのです。次には、今回の宗教学法人規則に矛盾するところが無いように、瀬戸永泉教会規約を改訂をしていくことも必要となります。

教会の基本的な目的や役割が変わる訳ではありませんが、教会にとって大切な今回の規則改正だったのです。

礼拝堂の増改築は目に見える形でしたが、宗教学法人規則改正は外からは見えません。しかし、この地において信頼され、市民の方が安心して足を運んでくださる瀬戸永泉教会の堅実な歩みが続く基盤ができたのです。礼拝堂の増改築が無事に終わったことと併せて共に喜びましょう。

## 聖書豆知識

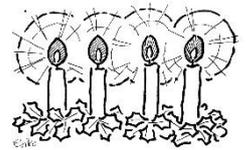
### 逃げてもいい

#### 小椋 実央牧師

中学生に旧約聖書を教えています。ヤコブは兄弟げんかをして逃げ、モーセは人を殺してエジプトから逃げ、聖書にはなんと逃げ出す話の多いことだろうと思うに至った。そういえばアブラハムは父の家から逃げたし(ただしこれは神さまの命令)、そもそもアダムも楽園から逃げ出したんだっけ(正しくは

追放された)。新約聖書を開けば12弟子もイエスさまを見捨てて逃げたし、パウロも籠に乗ってユダヤ人から逃げたとある。これから力をつけて人生の荒波に立ち向かっていこうという子供たちに、なんともお手本にならない情けない話ばかりではないか。「その場に踏みとどまって努力することも大事。でも時にはすべてを投げ出して逃げ出さなければいけないこともある。」なんとも歯切れの悪い説明で授業を終えざるをえなかった。

生徒のノートを回収して点検をしている時、ノートの隅にこんなメモがあった。「逃げてもいい時がある、ということ学んだ。」彼女の人生の中で「苦しくても逃げてはいけない」ことを教えてくれる人がいても、「逃げたい時は逃げてもいい」ということを教えてくれる大人はいなかったのかもしれない。大学受験、就職、恋愛に結婚、この先彼女が逃げ出したくなることは山ほどあるだろう。その時このノートの片隅のメモが彼女の助けになることを心から願わずにいられなかった。神の恵みはあとからついてくる。だから逃げて、逃げて、逃げまくれ!



### 【クリスマスの予定】

12月2日(土)

・CS学童向けクリスマス祝会  
13:30~15:00

12月17日(日)

・CSクリスマス祝会 15:00~16:30

12月24日(日)

・クリスマス礼拝 10:30~

・聖夜礼拝 17:00~18:30(予定)

※一部礼拝・二部コンサート

金城学院大学ハーブアンサンブル(4台)

＝編集後記＝

アドベントが始まりました。主の御名を崇め、賛美します。御子が私たちの中に来てくださった喜びをかみしめこの期間を過ごしていきたいものです。クリスマスを祝う行事一つ一つ、どうか支え、導き、そして祝福がありますように。どうか、戦争によって愛する者の命をなくし、嘆き悲しんでいる人たちに慰めがありますように。世界中の人々に平和がありますように。今回も原稿お願いしました方々、ありがとうございます。御心を願います。  
アーメン

K・Y長老

日本キリスト教団 瀬戸永泉教会

牧師 横山 厚志・小椋 実央

〒489-0822 瀬戸市杉塚町5

電話、FAX: 0561-82-2314

ホームページ: [瀬戸永泉教会](#)で検索または→

